

## 国連砂漠化対処条約第 16 回締約国会議（UNCCD COP16）に参加しました (2024/12/2～12/13)

テーマ：砂漠化、干ばつ、移民・難民、食料安全保障、環境共生、気候変動、レジリエンス、国際防災  
会場：サウジアラビア・リヤド  
URL：<https://www.unccd.int/cop16>

2024 年 12 月 2 日から 13 日まで、サウジアラビア王国の首都リヤドにおいて、国連砂漠化対処条約第 16 回締約国会議（UNCCD COP16）が開催され、当研究所から原裕太助教（2030 国際防災アジェンダ推進オフィス）が参加しました。

砂漠化対処条約は、乾燥地における土地劣化（Land degradation）と干ばつを扱う国際条約であり、1992 年にブラジル・リオデジャネイロで開催された国連環境開発会議（地球サミット）での基本合意を経て、1994 年に採択されました。

今回の COP16 では「Our Land, Our Future」をスローガンに、王族や首脳級を含む 2 万人以上が参加しました。また条約採択から 30 年の節目にあたり、UNCCD COP としてはじめて、政治交渉の場である Blue Zone に隣接して、誰でも自由に参加できる Green Zone が設けられ、国際機関やサウジアラビアの政府機関、各国の企業、大学、NGO がブースを出展し、連日様々な研究集会やシンポジウムが開催されました。COP では塩害や砂塵嵐、水資源の確保、食料安全保障、緑化技術などとともに、移民・難民、人々の健康への影響、食品ロス（フードロス）、金融などにも焦点が当てられ、各所で活発な議論が行われました。会場内には、サウジアラビア政府が 2021 年から開始した「Saudi Green Initiative」を広報するパビリオンも設けられ、複数日に渡りフォーラムも開催されました。

次回の COP17 は、2 年後の 2026 年にモンゴルで開催されます。



原助教



会場の外観



開会式



Green Zone の内部